

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(4月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①確かな学力の向上のための取組を充実させ、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②農業に関する専門性向上を図る教育を充実させる。</p>	<p>①学習意欲を高め学力を定着・向上させる教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒会、農業クラブ等の活動を活性化させる。</p>	<p>①組織的な授業改善に取り組む、生徒の学習意欲を向上させる。</p> <p>②授業力を向上させるために、研修会を実施する。</p> <p>③アクティブ・ラーニングの実現のため、授業におけるICTの活用に関する研修会を開催し、生徒が主体的に学ぶ学習スタイルを定着させる。</p> <p>④生徒会・部活動や農業クラブの発表会等への参加を進める。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目8における「4 かなり当てはまる」の回答率が3割以上となった。</p> <p>②研修会が授業力向上のための手立てとなり得た。</p> <p>③授業におけるICTの活用に関する研修会を開催し、その成果に基づいた授業を各教科及び学科で1回以上取り組む。</p> <p>④県大会以上の出場ができた。</p>	<p>①生徒による授業評価の結果から、授業に対して意欲的に取り組んでいると答えた生徒が34.5%となり、当初の目標を達成した。</p> <p>②組織的な授業改善に関する研修会を2回実施したが、アンケート結果から参考になったという意見が多かった。</p> <p>③ICTの授業への活用に関する調査研究を進めたが、全体での研修会を開催するには至らなかった。</p> <p>④部活動の加入率は約36%で例年(40%)より下ってしまった。</p> <p>・ライフル射撃部、バレー部(男)、弓道部、和太鼓、酪農部、養豚部、教科(造園)が県内はもとより、関東、全国大会において、優秀な成績を収めている。</p> <p>・農業クラブ研究班が全国・関東大会出場</p> <p>・フラワーアレンジで全国大会出場</p> <p>・ボランティアスピリッツ賞を受賞。</p>	<p>①1学年の生徒による授業評価の結果が30.5%と他学年と比べて低い。ため、来年度以降重点的に学習意欲の向上をめざす。</p> <p>②授業評価とアクティブラーニングに関する研修会を行ったが、より実践的な内容を希望する意見が多かったため、来年度以降の内容の改善が必要である。</p> <p>③次年度当初に、ICTの授業への活用研修会とその成果に基づいた授業計画を立案し、授業改善や新しい学習スタイルの定着を目指したい。</p> <p>④部活動の加入率が増え参加する生徒が定着するよう、部活動紹介やポスター掲示、新入生の仮入部等の体験を通して新入生が関心を持てるよう工夫する必要がある。</p>	<p>(学校関係者)</p> <p>・進路の如何を問わず、高校卒業までに身につけさせるべき基礎学力をしっかりと育てることが重要である。</p> <p>・生徒の大多数が農業従事者ではない。家庭の出身である現状の中で、将来就農する若者の育成に向け、さらに努力をしてほしい。</p> <p>(生徒・保護者)</p> <p>*以下、「学校評価アンケート」の「肯定的回答」とは、「強く思う」「思う」の2つの選択肢を選んだ人の比率である。</p> <p>・アンケート結果では、「基礎学力が向上した」「家庭学習の習慣が身についた」に関する生徒の肯定的回答が34%、49%と、いずれも過半数に及ばなかった。</p> <p>・保護者の自由意見では、進路実現に向け、共通科目の基礎学力充実のための指導を求めるものも見られた。</p> <p>・同じく「生徒会・部活動・農業クラブの活動に積極的に参加」「学校行事に積極的に参加」に関する生徒の肯定的回答は58%、74%と比較的高い数値を示した。</p>	<p>・アクティブラーニングをふまえた授業改善をテーマに、授業観察、生徒による授業評価、研修会、研究授業・研究協議、教科単位の振り返りを内容とするPDC Aサイクルを軌道に乗せることができたが、新たな取組であったため、改善点も多い。</p> <p>・ICT活用研修を実施できなかった。</p> <p>・生徒間の基礎学力差が大きい教科について、数学では習熟度別授業を導入し、英語では引き続き放課後の希望者講習・補習を実施する。</p> <p>・年度当初の部活動オリエンテーションを工夫し、上級生の活動・活躍を積極的にPRすることで、新入生の加入率を高める。</p>	
2 生徒指導 支援	<p>①豊かな人間性や社会性を培う個に応じた生徒指導・支援体制の充実を図る。</p> <p>②インクルーシブな学校づくりを推進する</p>	<p>①生徒一人ひとりの個に応じた生徒指導、教育相談を充実させる。</p> <p>②えびな支援学校と連携した教育活動を推進する。</p>	<p>①学校生活アンケートによって生徒の状況把握し、支援体制に結びつける。</p> <p>②交通安全教室を実施し、交通ルール等に関する規範意識を高める。</p> <p>③えびな支援学校との連携事業を進める。</p>	<p>①アンケートを年2回実施できた。またそれによって支援体制を確立することができた。</p> <p>②交通事故前年度より減少した。</p> <p>③本校園芸科2年「生物活用」での栽培学習、和太鼓部・バスケットボール部の等部活動、文化祭や模擬投票等の学校行事でえびな支援学校との連携をはかることが出来た。</p>	<p>①アンケートについてはもっと確認作業(生徒との面談)が必要であった。</p> <p>②交通安全教室を1年生に対して行っているが、時折自転車に関してのルール違反も見受けられる。</p> <p>③えびな支援学校と特に新設科目「福祉と農業」での栽培・飼育学習等の連携の強化をはかり、あわせて、学校行事、部活動での連携も深化させていく必要がある。</p>	<p>(学校関係者)</p> <p>・生徒が礼儀正しく、あいさつもきちんとできる状態あり、学校全般が落ち着いたことはすばらしい。</p> <p>・えびな支援学校との連携種にも感謝する。弱者を排斥する風潮が一部ある中、いのちの尊厳を学ぶ取組を力強く推進してほしい。</p> <p>(生徒・保護者)</p> <p>・「学校が楽しい」「学びやすい雰囲気」「いのちを大切にすることができた」に関する生徒の肯定的回答は71%、66%、77%だが、「先生に相談しやすい雰囲気」については49%に止まった。</p>	<p>・いのちの教育に関する全校発表会を継続して実施した。</p> <p>・学校生活におけるあらゆる学びの土台となる基礎的な環境までできているが、それを活用して生徒の学力向上や自信につなげる工夫がさらに必要である。</p> <p>・様々な理由で支援が必要な生徒に対して、ケース会議を中心に、時には外部の専門機関とも連携しつつ対応した。</p> <p>・交通事故の件数を減少させることができた。</p> <p>・えびな支援学校との連携では、当初の想定以上の活動を実施できたが、計画性及び生徒間連携の面で改善点がある。</p>	<p>・いのちを尊重する教育を、引き続き本校の教育の柱に位置づけ、実践を重ねる。</p> <p>・ルール、マナーを含め、社会で生きるための人間力の育成を引き続き図るとともに、生徒の成長を評価する場を活用し、生徒の自己肯定感・達成感を高める工夫を強化する。</p> <p>・生徒が安心して相談することができる雰囲気づくりを進める。</p> <p>・PTAとも連携し、引き続き交通安全指導に取り組み。</p> <p>・えびな連携委員会を中心に、両校で計画的に、かつ緊密に連携しつつ、生徒間交流の拡大という視点を中心に内容の改善を図る。</p>	

3	進路指導支援	<p>①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成し、進路指導の充実を図る。</p> <p>②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。</p>	<p>①勤労観・職業観を育成するため、産業界等と連携した体験的な学習の充実を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現を図る。</p>	<p>①インターンシップ、デュアルシステム等の活動を充実させる。</p> <p>②「キャリア教育実践プログラム」に基づいたキャリア教育を推進する。</p> <p>③進路説明会を定期的に行う。</p> <p>④講演会等を通じてシチズンシップ教育の充実を図る。</p>	<p>①農業体験やインターンシップ、デュアルシステム等の参加者が充実した活動を行うことができた。</p> <p>②「キャリア教育実践プログラム」を計画的に実施できた。</p> <p>③進路実現に向けた指導が十分であった。</p> <p>④シチズンシップ教育の充実を図れた。</p>	<p>①・農業体験に14 農家、16 名の生徒が、またインターンシップには9 施設、10 名の生徒が活動することができた。</p> <p>・デュアルシステムについては、26 名参加し、製造業・農家・販売の仕事をしたことができた。</p> <p>②キャリア教育実践プログラムについては、各グループ・学科等の協力体制により計画的に実施することができた。</p> <p>③進路実現に向けた指導については4 月より計画的に個別説明会を行い、併せて個別指導も行った。</p> <p>④シチズンシップについては、えびな支援と18 歳選挙権に関する講話や模擬投票を行った。</p>	<p>①・農業体験先に巡回等を行い、積極的に体験学習を行っている様子が伺えた。来年度以降も継続して体験を行うよう検討していきたい。インターンシップについては参加者をさらに増やすため、生徒への広報活動を行ってきたい。</p> <p>・デュアルシステムの研修先を探すのに苦労した。午後からの2 時間では、なかなか受け入れてくれるところがない。また、受け入れてもらっても研修先によっては、仕事が既に終わり、片付けなど仕事の中心部分は体験できなかった。また大きな工場等では、組織上生徒を組み込むことは難しく、協力を得ることはできなかった。このようなことから、カリキュラム上の工夫や前もっての研修先確保が重要であると思われる。</p> <p>②キャリア教育実践プログラムは大幅改訂を行ったが、本校の未来像に沿ったさらなる改善が必要と思われる。</p> <p>③進路指導については保護者も含めた個別相談を継続して行うべきと考える。</p> <p>④シチズンシップ教育については、消費者教育等も含めた形で検討していく必要がある。</p>	<p>(学校関係員)</p> <p>・インターンシップ、農業体験、デュアルシステムの取組等、体験を通じて学ぶことは大変重要である。後継者不足など就農家の視点もふまえ、積極的に連携を進めてほしい。</p> <p>(生徒・保護者)</p> <p>・「実験・実習等の体験的な学習をとおして農業学習への興味・関心が高まった」に関する生徒の肯定的回答は87%と非常に高かった。また、保護者の肯定的回答も83%と高かった。</p> <p>・キャリア教育について、「自分の生き方や将来を考えるようになった」「説明会やガイダンスが充実」に関する生徒の肯定的回答は64%、65%であったが、「面談による学習意欲・進路意識の向上」「シチズンシップ教育による政治参加(選挙等)理解の深化」については46%、25%に止まった。</p> <p>・「ガイダンス・進路指導の充実」に関する保護者の肯定的回答は61%であった。</p>	<p>・インターンシップ、農業体験、デュアルシステム等の体験的な学習が生徒の学習意欲の向上に強い関連を持っていることはアンケート結果からも窺われるが、参加者数がやや減少している。</p> <p>・実施1年目であったデュアルシステムについては、研修先の確保も含め、運用面でも改善点が多い。</p> <p>・本校のキャリア教育実践プログラムに基づき、説明会・ガイダンスを計画的に実施した。進路の手引きの活用法や、面談による生徒の意識・意欲の向上等の面で改善の余地がある。</p> <p>・進路関係書類の作成等については、組織的な対応による事故防止の徹底を図ることができた。</p>	<p>・引き続き体験的な学習の内容の充実を図り、参加生徒の増加を図る。</p> <p>・デュアルシステムについては、研修先を確保した上で、カリキュラム上の工夫を検討する。</p> <p>・個々のキャリア行事や面談を、さらに生徒の意識・意欲の向上に繋げるために、実施目的・ねらいを生徒が着実に理解するよう指導法を工夫する。</p> <p>・シチズンシップ教育については、政治参加(選挙等)以外の内容の導入も検討する。</p> <p>・進路関係書類について、引き続き事故ゼロの取組を推進する。</p>
4	地域等との協働	<p>地域や関係機関等との連携・協働による学校づくりを推進する。</p>	<p>①学校の特色を生かした地域活動に取り組む。</p> <p>②地域や関係機関等と連携した学習活動の教育プログラムの開発を進める。</p>	<p>①生徒会や農業クラブ・委員会等による地域との連携・協働活動等を充実させることにより、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>②地域と連携した防災訓練を行い、防災教育を充実させる。</p>	<p>①・地域の農業学習の拠点としての学校づくりができた。</p> <p>・地域や開かれた農場として活動できた。</p> <p>②地域と連携した防災(火災・地震)訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高めることができた。</p>	<p>①・地域貢献活動を中心に、学校周辺の美化活動を実施することができた。</p> <p>・和太鼓部が地域の行事などの活動を通して交流を行った。</p> <p>・草花部のコサージュ教室や酪農部の共進会運営補助と酪農教育ファーム活動、農業総合科の学校開放講座等、農業の特色を生かした貢献活動として、地域の拠点となっている。</p> <p>②防災計画を作成し、防災訓練を4月27 日と8月30 日に実施したが、地域と連携した防災訓練は実施できなかった。</p>	<p>①地域貢献の一環で校外清掃を行っているが、生徒が地域に対する貢献活動をしている意識が少ないため、地域だけでなく生徒にも活動のPRが必要である。</p> <p>②地域と協働しての防災訓練については、計画的に実施する必要がある。</p>	<p>(学校関係員)</p> <p>・和太鼓部をはじめ多くの生徒が地域の様々な場に参加し、貢献してくれていることに感謝したい。その他にも、生産物販売会や、保育園・幼稚園・小学校・中学校との連携を是非継続してほしい。</p> <p>・自らが地域に貢献できていると感じる生徒の割合をもっと増やす必要がある。</p> <p>(生徒・保護者)</p> <p>・「地域貢献活動・部活動・授業等をおとした地域との関わり深まり」に関する生徒の肯定的回答は44%だが、「地域に開かれている学校」に関する保護者の肯定的回答は94%であった。</p> <p>・「防災意識の高まり」に関する生徒の肯定的回答は52%であった。</p>	<p>・地域清掃を中心とする地域貢献活動や、様々な部活動・農業クラブが、地域行事に積極的に参加・貢献し、地域からの評価も高いが、全校生徒レベルで見ると、貢献できているという実感がまだ低い。</p> <p>・熊本地震もあり、防災訓練によって生徒の防災意識がやや高まった。D I G訓練も教員・生徒対象に実施した。</p> <p>・地域と連携した防災訓練を実施できなかった。</p>	<p>・地域に開かれた学校・地域に貢献する学校としての取組を継続するとともに、全校生徒で実施している地域貢献活動の意義について生徒に理解させる。</p> <p>・具体的で実践的なD I G研修を継続するとともに、防災訓練の内容についても同様の視点を踏まえ、内容の改善を進める。</p> <p>・地域と連携した防災訓練について、地元自治会等と連携し、計画的に実施する。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①すべての職員が組織的に学校運営に取り組む。</p> <p>②地域から信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>①事故・不祥事の防止を徹底し、地域から信頼される学校づくりに取り組む。</p> <p>②安全、安心して快適な教育環境の整備を推進する。</p>	<p>①事故・不祥事防止を徹底し、職員の実践的指導力を向上させる。</p> <p>②ホームページの更新を精力的に行い、積極的な情報発信を行う。</p> <p>③施設等の定期的な点検を実施するとともに、学習環境にふさわしい校内環境の整備を進める。</p>	<p>①O J Tの計画的・組織的展開により事故・不祥事防止職員の実践的指導力の向上を図ることができた。</p> <p>②ホームページの更新を1回/週以上出来た。</p> <p>③施設等の定期的な点検を実施し、安全・安心な校内環境の整備を行うことができた。</p>	<p>①・事故防止会議以外にも、職員会議や朝の職員打合せ等の機会を活用し、管理職が先頭立って注意喚起・周知徹底を図ることで、ミスや事故につながる取組を推進させることができた。</p> <p>・業者選定会議は、H28 年度入学生への備蓄食料・修学旅行・卒業アルバム・H29 年度入学生の実習服・制服について実施した。</p> <p>②ホームページの更新は、1回/2週のペースに留まった。</p> <p>③学校環境整備事業として保護者・生徒・関係職員によるペンキ塗りを実施した。</p>	<p>①・教職員の言動を含む適切な生徒指導という点で課題が残った。また、職員相互の複数点検にまだ甘さがある。組織全体の課題ととらえ、タイムリーに、かつ、粘り強く取組を進める。</p> <p>・業者選定会議について今年度から企画会議のメンバーで実施することになった。来年度以降も継続して行いたい。</p> <p>②年度当初ホームページ担当者会議を行い、年間行事予定を参照しながら各グループに担当する記事を割り当てることによって、各グループが記事を作成しやすい環境づくりを行っていく。</p> <p>③学校内の施設設備については更に細かく定期に実施していきたい。</p>	<p>(生徒・保護者)</p> <p>・アンケートの自由記述において、生徒・保護者ともに、生徒に対する教員の言動に疑問を呈するものが複数あった。</p> <p>・「学校ホームページの充実」に関する生徒の肯定的回答は34%に止まり、更新されていない古い内容について指摘する意見が複数見られた。</p> <p>・「清掃が行き届き校内がきれい」に関する生徒の肯定的回答は36%に止まるとともに、生徒・保護者ともに自由意見において、トイレ施設の古さや洋式トイレ不足を訴えるものが相当数あった。</p>	<p>・事故・不祥事ゼロプログラムに基づき、組織全体で取り組んだ結果、従来よりも大幅に課題を減少させることができた。</p> <p>・生徒に対する適切な指導という点で課題が残った。</p> <p>・ホームページの充実という点では、校長のブログをはじめ、一定の改善を見たが、古い内容の更新等、また課題がある。</p> <p>・保護者・生徒・教職員による環境整備作業(ペンキ塗り)を実施することができた。</p> <p>・学校評価アンケート結果を受け、校内の全てのトイレにおいて、電球の交換・荷物掛けフックの設置を行った。</p>	<p>・引き続き事故・不祥事ゼロの取組を組織的に推進するとともに、今年度浮上した課題として組織的に取り組む。</p> <p>・各グループのホームページ担当者が具体的に作成予定に基いて取り組むことができるよう、情報グループを中心に環境づくりを進める。</p> <p>・トイレ清掃の徹底等の環境整備を進めるとともに、2・3年生の教室にも段階的にロッカー導入を進める。</p>